

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京大学	整理番号	B01
プログラム名称	サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム		
プログラム責任者	武田 展雄	プログラムコーディネーター	味埜 俊

(評価決定後公表)

(総括評価)

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、英語のみで実施される5年一貫の学位プログラムが構築され、幅広い領域からの講義が受けられる体制を整え、教育環境の整備に進展が認められる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、国際機関等から著名なリーダーを招聘し講演会や討論会を行っていることは評価できるが、学生の学外での主体的な活動をより活発化させるために、学会発表や国内外でのインターンシップ参加の機会を増やす工夫が求められる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、留学生が圧倒的に多いことにより外国語によるコミュニケーションの場は整っており、グループ研究プロジェクト型の演習の効果が期待される。しかし、日本人学生が海外で実習や研究を行う体制が整備されていない。また、外国人教員が非常に少なく、日本人学生が英語での研究指導を受ける機会が限定されている。日本人学生を修士課程から一貫してグローバルな環境において養成していく体制の構築が求められる。

優秀な学生の獲得については、優秀な留学生が確保されており、留学生に対する経済的支援が実施されていることは評価できるが、日本人学生は申請時に掲げた目標に照らして少なく、博士課程に進学し、修了後は博士号を持ったリーダーとして活躍しようという優秀な日本人学生を獲得するためにはより一層の努力と工夫が必要である。

世界に通用する確かな質保証システムについては、「サステナビリティ学」を確立した上で、当該学問を修めたグローバルリーダーに求められる条件をより明確にする必要がある。

事業の定着・発展については、全学的な大学改革の一環としてプログラムが実施され、学内のマネジメント体制が整備されていることは評価できる。今後、本プログラムについての具体的な検証を行い、改善や発展の方向性を明示した上で、支援期間終了後の学位プログラムの定着・発展に向けた具体的な取組を進めていくことが求められる。